

○令和4年度 教育事業

「 地域探究プログラム with 上富良野高校 」(R4.4.15 (金) ~R5.3.22 (水))

◆目的

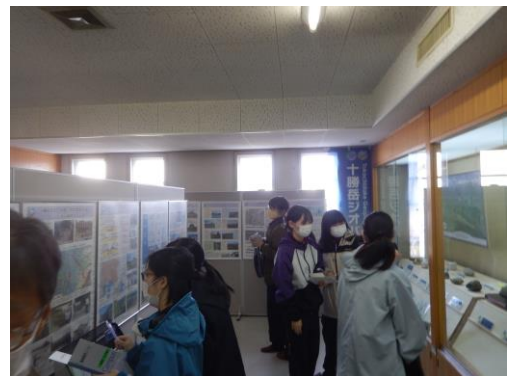
高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動をととして、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材の育成に資する。

◆参加実績

北海道上富良野高等学校 1年生 22名

◆プログラム

- ① アイスブレイク・・・(4/15)
アイスブレイクのゲームを行い、参加者同士と職員の間
の緊張感を解消し、話しやすい雰囲気をつくった。
- ② 地域探求ガイダンス・顕彰制度の説明・・・(4/15)
担当の先生が地域探究学習の流れを説明し、その後大雪職
員が、全国高校生体験活動顕彰制度の趣旨や流れを説明す
ることで、今後の活動の見通しをもたせた。
- ③ 課題発見プログラム1・・・(4/15)
参加者が上富良野町郷土資料館、美瑛町郷土資料館「美
宙」、十勝岳火山砂防情報センターを見学し、それぞれ町の
歴史、ジオパーク、泥流、十勝岳、農業、災害の観点から
疑問を見出した。
- ④ 課題発見プログラム2・・・(4/15)
プログラム1で見つけた疑問を見学場所ごとにふせんに
書き出し、見学場所ごとの3グループで疑問の多いものや
興味のあるものをピックアップして課題を考えた。
- ⑤ 課題発見プログラム3・・・(4/16)
プログラム2で考えた課題を共有し、課題を解決するた
めに具体的にどのような調査をするのか考え、発表した。
- ⑥ 仮説検証プログラム・・・(9/28)
過去の十勝岳の噴火に伴い、噴火口に近づくに従って環境
にどのような影響が出ているのか、石の大きさ、水質、植
生の3グループに分かれて、それぞれのグループで仮説を
立て、仮説を検証するための調査を行った。
- ⑦ データ分析・・・(9/28)
仮説検証プログラムで得られたデータを分類、整理し、グ
ラフや地図に表し、自分たちの仮説を検証した。
- ⑧ フィールドワーク発表会 (10/11)
⑥⑦の活動を基に、自分たちがどのような仮説を立てて、
どのような調査を行い、検証した結果仮説が立証されたか
どうかをまとめ、グループごとに発表した。



⑨ 実践活動テーマ発表会 (3/22)

これまで活動を踏まえて、自分たちがどのような実践活動を行うかを検討し、設定したテーマや仮説を発表した。

◆事業運営・企画のポイント

○学校連携型での実施のため、学校の要望や実態を踏まえて進行することができた。

○1年を通して探究の流れを学ぶことで、探究学習の流れが身につき、次年度の実践活動に向け、良い準備になった。



◆参加者の声

□探究活動の流れが良く分かった。

□グループで協力して活動することができた。

◆事業の成果

① 学校連携型として実施をすることで、学校のカリキュラムに応じた弾力的な運用を行うことができた。

② 1年生…探究のプロセスを学ぶオリエンテーション合宿
2年生…学んだプロセスを自分たちの興味関心に応じた課題探究に生かす実践活動

3年生…町民発表、町長への提言

というように、学年が上がるにつれて学習内容を深めていく流れができた。また、外部に発信したり、上級生や下級生の取組を見たりすることで互いに刺激を受け、活動が活発化したり、自分たちの活動や学びに自信をもったりすることができる構図となった。

